

短歌

奨励賞

花と日

蓮代寺町 山本美保子

身を縛る何なき老いの日日に灯のごとく夜顔ひらく
庭に散る白木蓮の大胆に胸のつかへの下りたる心地
花の季^{とき}過ぎて一輪しをらしき桔梗の瑠璃色雨に滴す
野に咲ける花の強かをりふしに七十路半ばの眼にしかと
畦道に這ふ荒草に小花咲き踏まるるままに秋を装ふ